

界川の家



自然豊かな場所に建つ住まい

札幌市を流れる界川のほとりに計画した住居である。敷地は大きな榎木が生い茂り、奥には界川の流れる、自然豊かな心地の良い場所である。

また、敷地内高低差が8mある崖地で、様々な法規制のかかる敷地である。

多様な外部と関わりを持つ住まい

敷地の持つ素晴らしい環境的要素を最大限享受できるよう、多様な外部との関係を、住まい手が主体的に選択できる建築を目指した。具体的には、外部と内部を繋げる開口に多様性を持たせ、様々な居場所を創出している。

ボーテは奥に流れる川の存在を来訪者に感じさせる奥行きのある開口があり、川のせせざりや風のざわめきを反響する。

臨む空間を通り抜けた奥にあるリビングには大きな開口が設けられ、外部環境の変化をダイナミックに享受する。窓を設けず、落葉樹による季節的な日差しの変化や、開口すぐ近くには居る音が聴きやすくなるなど、外部の変化を素直に受け入れる。外にはテラスがあり、自然の中に放り出された居場所となっている。

フリースペースは、二つの開口を介して外部と繋がる。二つの開口の間は半屋外の小さな居場所、自然の強さを強調する。

ライブラリーには壁一面の本棚をくり抜いた開口が設けられ、一人だけの居場所を持つ。本棚をくり抜いて川の音や風を感じながら読書や書き物を楽しむ。生活者が風景の一部となる。

単純な箱型の建築

可能な限り既存樹木を残したい事、室内の温熱環境に面する外皮面積は最小限に抑えたい事から、建築ボリュームは単純な箱型とした。ボリュームの物質化は施工精度に影響を与え、気密などの建築性能を担保する。結果、様々な開口がありながらUA値0.36、C値0.3と、高い性能を備える事が可能となった。

地盤に沿った断面計画

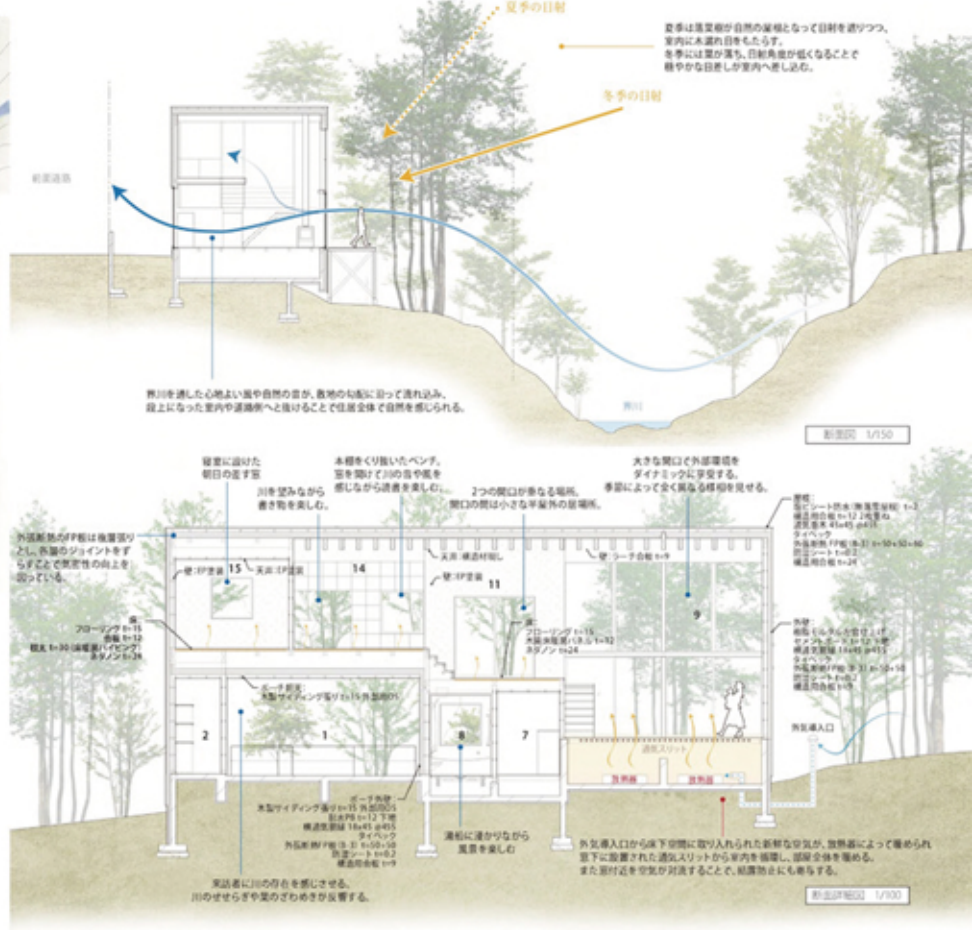
長手断面は現状の地盤勾配に沿うよう段状に計画し、周囲との関係を重視すると共に、基礎数量の削減を図った。多様なレベルは、各々の空間に設けた開口の独立性を高める事に寄与し、それらがひと繋がりにつながるおらかな空間となっている。

建物概要

所在地	札幌市中央区界川	敷地面積	353.00㎡ (106.8坪)
周辺地域	第一種低層住居専用地域	建築面積	94.20㎡ (28.3坪)
地区区分	第10号低層住居地区(第二種)	延床面積	167.95㎡ (50.8坪)
種別	木造		
階数	2階建て		



1. ボーテ	7. 洗濯・脱衣室	13. 和室
2. 居間	8. 浴室	14. ライブラリー
3. 玄関	9. 洗面	15. 寝室
4. バンナリー	10. テラス	16. フリースペース
5. 洗面室	11. フリースペース	17. WC1
6. トイレ	12. ベランダ	18. WC2



1. ボーテ	7. 洗濯・脱衣室	13. 和室
2. 居間	8. 浴室	14. ライブラリー
3. 玄関	9. 洗面	15. 寝室
4. バンナリー	10. テラス	16. フリースペース
5. 洗面室	11. フリースペース	17. WC1
6. トイレ	12. ベランダ	18. WC2